

■殺菌剤：農業用

オキサゾール系

タチガレン®粉剤

登録番号：10760

毒性：－

消防法：－

有効年限：5年

成分 ヒドロキシイソキサゾール……4.0%

物理的・化学的性状 類白色粉末45μm以下

包装：1kg×12

◆特長

- 稲苗立枯病に卓越した効果を示すほか、生育促進効果も認められ健苗の育成が期待できます。
- 植物体内のオーキシンとの共力作用により生理活性効果も示します。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名 使用目的	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ヒドロキシ イソキサゾール を含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	根の生育促進 移植時の発根及び 活着促進 ムレ苗防止	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 4～8g	は種前	1回	育苗箱土壌に 均一に 混和する。	4回以内 (移植前の土壌混和は 1回以内、移植前の 土壌灌注は2回以内、 本田では1回以内)
	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌)	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 3～6g				
稲 (畑苗代)	根の生育促進 移植時の発根及び 活着促進 苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌)	50～100g /㎡			深さ5～10cmの 苗代土壌に 均一に 混和する。	
稲 (折衷苗代)	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌)					
稲 (湛水直播)	根の生育促進によ る苗立の安定	乾粒重量の 3%			過酸化カルシウム 剤に添加して種子 に湿粉衣する。	2回以内 (種もみへの処理 は1回以内、本田 では1回以内)

作物名	適用病害虫名 使用目的	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ヒドロキシ イソキサゾール を含む農薬の 総使用回数
てんさい	苗立枯病	250～500 g / 10 a 分の床土 (約400kg)	は種前	1 回	土壌混和	5 回以内 (種子粉衣は 1 回 以内、育苗土壌へ の混和は 1 回以内、 灌注は 3 回以内)
すいか		50～75 g / 床土 50 ℓ	は種時		育苗用土壌に 均一に 混和する。	2 回以内 (育苗土壌への混和 は 1 回以内、苗床へ の灌注は 1 回以内)
ほうれんそう	立枯病 根腐病	40kg / 10 a	は種 3 日前 ～直前		全面土壌混和	1 回
たばこ	舞病	5 kg / 10 a	移植前	—	畦土壌表面処理	—

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

## ◆注意事項

- (1) 本剤を土壌混和する場合はなるべく播種直前に行うこと。
- (2) 稲に使用する場合は次の事項に注意すること。
  - ① 苗立枯病防除及び根の生育、発根促進に使用する場合、使用量が多すぎると逆に初期生育が一時抑制される場合があるので、使用量を誤らないように注意すること。
  - ② 本剤の種もみ播種時の施用は苗立枯病の防除と同時に苗の根の生育を促進し、間接的に健全な苗の育成を目的として使用する。また移植時期の温度が低い場合等には発根、活着促進に効果がある。
  - ③ ムレ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗（生理的な急性萎凋障害）に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用する。
  - ④ 育苗期間が長くなると（たとえば中育苗）効果が低下するので、この場合には移植前に処理する活着促進に有効な薬剤との組み合わせで使用する。
  - ⑤ 過酸化カルシウム剤に添加して使用する場合は、十分混合して種籾に湿粉衣すること。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を厳守すること。
- (3) 稲に使用する場合、リゾトニア菌には効果が劣る傾向があるので、このような菌による発病地帯での使用はさけること。

## ◆安全使用上の注意

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋などを着用すること。作業後はうがいをすること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

## ◆魚毒性

この登録に係る使用方法では該当がない。